

## 社会人向け

【図表3】地域の特色・人材像が明確な連携事業例

課題	大学	連携先	内容
DX人材育成	宮城大学	県内の中小・中堅企業	県内中小・中堅企業等(ユーザー企業)の社員を対象に、日々の業務における問題解決方法についてデジタル技術を活用した「学び」を提供する。DXの事例を学び、自ら身近な課題へのDXを立案しながら「モジュール科目」から必要な科目を選択して履修し、自らの案をPoC(Proof of Concept: 実現可能性や効果などの検証)にまとめ上げて発表するプログラム。60時間の受講で修了書を発行する。
イノベーション人材育成	金沢工業大学	北菱電興株式会社	「リスキル・リカレント教育」に社員が積極的に参加するほか「KITコーオペ教育プログラム」で連携している、北菱電興株式会社との取り組み。「KITコーオペ教育プログラム」は学生が同社の社員として問題発見・解決を学ぶものだが、社員にとっても人材育成につながっている。この「知の往還」のしくみを他社にも拡大し、DX・GX・SXを牽引するイノベーション人材の育成をめざす。
高卒者の学士(経営学)取得	作新学院大学	株式会社TKC	栃木県内の高校を卒業し、株式会社TKCに入社したシステム開発職の社員向けに履修制度を設け、企業推薦長期履修学生として受け入れる。働きながら学び、5～6年で学士の学位取得をめざす(企業推薦長期履修学生規程により最長10年まで在籍可能)。
地域産業の振興	高知大学	食品会社、JA、銀行など	地域の食品産業の中核を担うリーダーを育成・創出するプログラム「土佐フードビジネスクリエーター人材創出事業(土佐FBC)」を実施。2023年度からは「土佐FBCIV」として、全ての産学をオンライン化した。コースは5つあり(本科、入門、部分受講、イノベーション創出基礎、学術指導<個別指導>)。本科コース修了後には大学院への進学も可能にしている。
まちづくり	福岡大学	自治体、スポーツ団体、スポーツチーム、企業	福岡でのスポーツ参画人口の拡大やスポーツを通じた地域の発展に貢献するために「FUSポまち」コンソーシアムを設置。大学のスポーツ施設、優れた指導者やアスリート、そのほか各参画団体のスポーツ資源を有効に活用し、スポーツによる活気あふれるまちづくりをめざす。キッズ・シニアスポーツ教室の開催やパラスポーツの普及・振興などに取り組む。

※各大学Webサイトの情報を編集部にてまとめ

【図表4】「地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築支援事業」(2023年度)

大学等(下線は採択機関)	内容
北海道国立大学機構 (小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学)	北海道における実践的リカレント教育の全道展開及び総合的リカレント教育推進体制の実現:北海道国立大学機構は教育コンテンツの開発等、地域企業は地域広報等、自治体は教室の提供や地域住民の受講料支援等、金融機関は移住希望者のマッチング等を担う。
山形大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、山形県立保健医療大学、山形県立米沢栄養大学、山形県立産業技術短期大学校	山形県における包括的な産学官医連携の枠組みを活用した地域リカレント教育の評価・環境整備の促進サイクル:経済団体等・自治体・高等教育機関によるスタンダードな評価方法の策定、企業の環境整備等の指針の作成、経営者層向けのリカレント教育プログラムの開発などを行う。
信州大学、富山大学、金沢大学	企業内リカレント教育を促進するためのプラットフォーム「ENGINE/円陣」:地域企業の経営革新ニーズを共有し、経営層向けのリカレント教育を実施。成果をセミナー等で示してプラットフォーム企業会員を増やし、リカレント教育を啓発するサイクルをつくる。
三重大学、県内大学、短大・高専	「リカレント教育プラットフォームみえ」の起動～三重型リカレント教育の推進～:大学と企業が共同でリーディングプログラムを複数開発。評価・改善によりプログラム数を増加させ、リカレント教育のうねりを起こす。
奈良国立大学機構(奈良教育大学、奈良女子大学)、奈良県立大学、奈良工業専門学校、奈良先端科学技術大学院大学、放送大学学園	「なら産地学官リカレント教育プログラム」構築事業:人材育成ニーズと教育コンテンツのマッチングに加えて、リカレント教育の有用性評価システムの構築や、学びの環境整備により、リカレント教育プログラムの持続的運用をめざす。
愛媛大学、広島大学、島根大学	Town&Gown構想推進に向けた「しまなみ未来社会人材育成プラットフォーム」構築:今治市と呉市におけるTown&Gown構想を実現するための「地域ハブ人材」育成と、海洋・海事都市としての特色再確認などが目的。地域共創型リカレントプログラムの先行実施等に取り組む。
九州大学、福岡大学	事業成長人材積積に向けたリカレント教育プラットフォーム構築事業:企業成長に向けた課題解決を支援するプラットフォーム。組織課題を解決するための実践型プログラムを提供し、事業成長人材と新しい価値創出をめざす経営層を育成する。
大分大学、大分県立看護科学大学、日本文理大学、別府大学、立命館アジア太平洋大学、大分県立芸術文化短期大学、大分短期大学、東九州短期大学、別府清部学園短期大学、別府大学短期大学部、大分工業高等専門学校、放送大学大分学習センター	地域ニーズに応える産学官連携を通じたリカレント教育プラットフォーム構築事業:地域の教育ニーズ調査に基づいて高等教育機関のリカレント教育プログラム開発を支援。大分県全体へ広報・周知を行うほか、受講者の募集や、受講者と高等教育機関のプログラムとのマッチングをサポートする。
宮崎大学、南九州大学、宮崎産業経営大学	みやざきデジタルノーマルの未来を目指したデジタル人材育成コンソーシアムの事業・実施体制強化:「宮崎県地域企業向け寄添い型デジタル人材育成リスキルプログラム」に加え、経営者層向けの教育プログラムを開発。コンソーシアムで評価・改善し、自走できる体制を構築する。

※文部科学省、各大学Webサイトの情報を編集部にてまとめ(採択機関の大学の事業のみ)

【図表5】ふるさと納税を活用した大学への支援

<p><b>パターン1 自治体と所在大学全て</b></p> <p>(例)愛知県名古屋「学生タウンなどや推進寄附金」市内全29大学・短大が対象。寄付者が1大学を指定。当該大学の地域貢献事業を支援。</p> <p>(例)東京都新宿区「ふるさと新宿区わがまち応援寄附金」区内380団体が対象。区内全8大学が含まれる。公益的活動(収益事業は除く)を支援。</p>
<p><b>パターン2 自治体と個別大学</b></p> <p>(例)富山県射水市「大学等設置促進助成金制度の創設」市内で大学等の新設を行う大学法人等が対象。受領した寄付金の額を上限に助成金を交付する。</p>
<p><b>パターン3 自治体と連携協定締結大学</b></p> <p>(例)京都府京都市「京都の大学・学生の活動を応援」市と連携協定を締結する30大学・短大が対象。寄付者が大学、用途を指定可能。当該大学の京都活性化事業、課題解決型学習等を支援。</p>

※各自治体、大学のWebサイトの情報を編集部にてまとめ

【図表4】には、リカレント教育のプラットフォームを支援する文科省事業の採択機関の取り組みをまとめた。地域のニーズ把握や、教育プログラムの開発とマッチング、その周知等が示されている。地域連携プラットフォームは全国で295あり、\*6高等教育機関では「役割に関する議論」の次に「産学連携リカレント教育」を強化したいと考えている。早期実現を期待したい。

最後に、自治体との連携のトピックスとして、ふるさと納税を紹介する【図表5】。地域や企業との連携や社会人の学び支援に係る経費なども補助対象だ。

\*6 文部科学省「地方公共団体と高等教育機関との連携の状況に関するアンケート結果」(2024年)より

## 学生向け

【図表1】地域で活躍するための教育プログラム例

課題	大学	連携先	名称	内容
イノベティブテクノロジスト*1育成	三条市立大学	燕三条の企業150社以上	産学連携実習	地元の提携先企業で、企画や開発、生産などの具体的な仕事を体験する。1年次に燕三条について学び、産学連携実習として、2年次に3つの企業で企画・開発・生産を体験し、3年次には学生自身が選んだ企業で16週間にわたる長期実習を行う。
シチズンシップやチームワーク力の育成	新潟大学	新潟県および山形県内の各地域(18ホーム)	地域共創プログラム新潟大学ダブルホーム一地域と共に創る新たなふるさと	地域課題に学生・教員・職員によるチームで、第2のホーム*2として地域プロジェクト活動行う準正課プログラム。運営・地域活動等は課外活動だが、学びを深めるために「ダブルホーム活動入門」「地域共創演習」「リーダーシップ演習」「地域共創特別演習」といった授業を設けている。
静岡県に必要な人材の育成	静岡産業大学	17の企業、自治体、団体(2024年度)	冠講座	大学と地域社会が協働して静岡県に必要な人材を育てる。学生は「プロスポーツチーム」「金融機関」「市役所・県庁」「広告代理店」「メーカー」より講座を選び、現場の人からリアルな仕事の内容や課題などの話を聞く。卒業単位として認定される。
地域に対する課題意識を有し、地域課題の発見・解決に貢献する人材の育成	鹿児島大学	鹿児島県内自治体や企業、研修先大学	地域人材育成プラットフォーム	学部横断型の教育の土台となるので、「かごしまキャリア教育プログラム」「かごしま地域リサーチプログラム」「かごしまグローバル教育プログラム」から成り、それぞれ「基礎」(計8単位)と「実践」(計8単位)の2段階に分かれている。2023年度は27名が「実践」まで修了。
地域に貢献できる人材育成	鹿児島国際大学	事業協働地域*3や経済団体、企業等	地域人材育成プログラム	自治体や産業界等と連携して地域が抱える課題について調査・研究する。「キャリアデザイン」科目、「地域志向」科目、地域人材育成科目、地域フィールド演習の履修を通して、将来、地元で就職して地方創生に寄与することをめざす。

\*1 技術を使ってイノベーションを起こせる人 \*2 自分の専門を学ぶ第1のホームに対して、第2のホームは学年・専門領域を越えた拠点

\*3 鹿児島市、阿久根市、日置市、垂水市、南大隅町、西之表島市、南九州市、三島村、大和村

※文部科学省、各大学Webサイトの情報を編集部にてまとめ

【図表2】文部科学省「地域活性化人材育成事業～SPARC～」2022年度選定

タイプ	大学(太字は採択機関)	地方公共団体	事業名称	主な内容
学部等の再編	山梨大学、山梨県立大学	山梨県	知(地)のソーシャルキャピタル～学びの山梨モデル～構築事業	PBL科目やSTEAM科目による文理横断型の専門教育の拡充や、文系学生・女子学生に対する実践知としての理工系教育を行う。
	信州大学、長野大学、佐久大学	長野県	「しあわせ信州」を創造する地域活性化高度人材育成プログラム	科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材を育成するため、文系学部でも自然科学の素養が身に付く教育プログラムを整備する。
	山口大学、山口県立大学、山口学芸大学	山口県、山口市	ひとや地域(まち・文化・教育)のwell-beingに貢献する文系DX人材の育成	well-beingの考え方に立ってDXを実践し、山口県産業の装置型から知識集約型への転換に貢献する。
高度な連携	岐阜大学、中部学院大学、岐阜市立女子短大	岐阜県、岐阜市、中津川市、高山市	ぎふ地域創生人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～	連携開設科目による文理横断型教育への転換や、地域ラボによる実践型PBLの充実、社会人向け教育を実施する。
	熊本大学、熊本県立大学	熊本県、熊本市	くまもとの未来を拓くグローバルDX人材育成プロジェクト～地域社会と国公私3大学の連携による「くまもと型文理融合DX教育」の構築を目指して～	半導体製造グローバル企業の誘致を背景に、文理融合の連携開設科目を開発し、真に求められるグローバルDX人材を育成する。
	宮崎大学、南九州大学、宮崎国際大学、宮崎学園短大	宮崎県、宮崎市、都城市	新しい価値を創造し持続可能な地域づくりを牽引する「多様な未来共創人材」の育成プログラム	地域に根差した魅力的な学び、多様で創造的な学びを実現。また、「STEAM・文理融合・分野横断」を基本に基礎教育を改革し、専門教育でも個性的なプログラムを実施する。

※文部科学省、各大学Webサイトの情報を編集部にてまとめ

企業が連携して課題解決や製品開発などを学ぶPBLは、今や\*4割以上の大学で行われている。その中で、将来、地元で活躍する人材を育成する教育プログラムに注目した【図表1】。

地域の人材育成は国全体の課題であり、文部科学省でも2022年度には地域活性化人材育成事業(\*5)SPARC)を実施、6事業体が採択された【図表2】。文理横断・文理融合型や、STEAM教育を実施する事業体が目立つ。

地域の人材育成課題に合わせた社会人教育

P.23には、地域の社会人に向けた、その地域の発展に関わる連携教育をまとめた【図表3】。宮城大学は県の委託を受けて、中小企業の社員向けにDX講座を開講。作新学院大学は、連携企業の高卒採用者に自学の授業を提供し、大卒資格取得をサポートする。

\*4 文部科学省「令和4年度の大学における教育内容等の改革状況について」より「大学と企業等とで連携して実施する、企業の課題解決や製品開発等を題材とした授業科目の開発(PBLの実施)」参照

\*5 Superimment Program for Activating Regional Collaboration

## 注目の地域連携

### 1

## 自治体・企業編

地域の課題を題材に実践力を養う学生向け教育や、社会人、地域向けの教育の、注目事例を取り上げる。

学生が地域を理解し将来活躍するために

取材・文/児山雄介

注目!

# 神奈川県大学の大学間連携による 学校推薦型選抜「推薦書」の共通化

高校教員の負担減を目的に、推薦書を同一フォーマットに「自学でも使いたい」と県外からも反響

神奈川県大学の大学連携組織が、学校推薦型選抜の推薦書の共通フォーマットを作成、2025年度入試から使用し始めている。競合関係にあるとも言える複数大学が連携した取り組みにより、地域の高校の負担を軽減させている。

学校推薦型選抜出願時に大学が高校に提出を求める推薦書は、大学によってフォーマットが異なるため、高校教員は生徒の受験大学ごとに記入内容を確認しながら書類を作成する。ミスが許されない重要書類でもあり、大きな負担になっていた。県内の30大学で構成する神奈川県大学入試広報連絡会は、会員大学が多数の高校から「推薦書のフォーマットを統一してほしい」との要望を受けている事態を把握。会員大学のうち11大学が集まり、2023年6月、推薦書のフォーマット共通化をめざすワーキンググループを結成した。

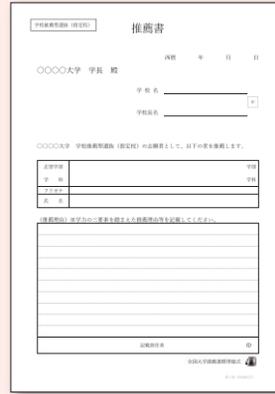
結成後、関東・甲信越の高校約100校に調査を実施したところ、多くの高校がフォーマット共通化に賛成。手書き限定ではなく、何度でも文字を直せるパソコンでの入力許可を求める声

も多かったという。この結果をふまえ、ワーキンググループは共通フォーマットを作成した(右図)。

A4用紙1枚に、学校長と記載した教員の署名欄、志望学部・学科、受験生の氏名欄、自由記述形式の推薦理由欄が設けられている。高校の負担やミスを減らすため、また、高校や大学によって異なる記入内容に柔軟に対応できるように、ごくシンプルな内容に落ち着いた。PDFで配布し、各高校がダウンロード後、パソコンで入力して紙に出力する運用が前提だ。2025年度入試では13大学でのスタートとなった。高校や大学の意見によっては、2025年度入試以降に改訂版を出すことも考えているという。

フォーマット公開後は、県内外から「自学でも使いたい」との声が上がった。同連絡会では、県内だけでなく、全国の大学にこの推薦書の活用を広げたいと考えている。

●問い合わせ／神奈川県大学入試広報連絡会(神奈川県工科大学入試課) メール:nys@kait.jp



## 大学の施策と連動した 高校の理系人材増加策

高大連携で今、注目を集めているのは、文部科学省が2024年度から実施している「高等学校DX加速化推進事業」(DXハイスクール)だろう【図表1】。これは大学・高専機能強化支援事業の高校版で、高校のデジタル人材育成教育を拡充してデジタル系の学部学科進学者の増加をめざし、成長分野の担い手を育成する狙いだ。情報、数学等を重視するカリキュラムを実施する高校に、IT機器整備などの経費として1校あたり最大1000万円(定額)を補助するしくみだ。申請の必須要件は「情報Ⅱ」科目の開設とデジタル環境の整備。それぞれに加点項目が指定され【図表2】、得点上位の学校から採択される。選択科目である数学Ⅱ、B、Ⅲ、Cの履修推進、デジタルを活用した探究学習やものづくりなどと並んで、大学との連携も加点項目だ。大学教員や博士人材が、情報Ⅱを担当する高校教員の研修や授業自体を行った、コンテンツを提供したりする取り組みが指定されている。大学との連携を実質化するため、文科省は2024年4月に大学・高専機能強化支援事業の選定

大学に、採択校への支援を呼びかけた。これにこたえる形で、日本工業大学は、「DXハイスクール支援プロジェクト」と銘打ち、Webサイトを通じて自学の出前授業の利用を採択校に提案【図表3】。金沢工業大学も「DXハイスクール応援プログラム」として、2日間にわたる来場型イベントを開催、ICT機器の操作体験等を実施した。埼玉工業大学では、工学研究の専門家だけでなく、情報技術教育の専門家も交えた「DXハイスクール対策チーム」が、採択校からの依頼に対応する。新潟高校に、データサイエンスに関する講義や実習を提供している新潟県立大学のように、特定の大学・高校同士が連携する例もある。DXハイスクールには2024年度は1097校が申請し、1010校(公立746校、私立264校)が選ばれた【図表4】。文科省によると、採択校の大学理系学部進学率は19.5%。それを2028年度の時点で28.9%まで高めることを目標としている。成長分野の担い手が増えれば、地域の産業の活性化が期待できる。デジタル・理数分野に強みを持つ大学は、受験生増加策としてはもちろん、地域の活力を高めるためにも、採択校との連携を検討したい。

【図表4】都道府県別採択校数・率(2024年度)

都道府県	採択数	採択率(%)
北海道	40	11.6
青森県	12	14.3
岩手県	21	22.1
宮城県	16	12.6
秋田県	16	24.6
山形県	17	21.8
福島県	17	13.9
茨城県	17	11.4
栃木県	11	11.8
群馬県	22	20.6
埼玉県	34	13.5
千葉県	38	16.5
東京都	101	19.8
神奈川県	31	10.9
新潟県	18	12.4
富山県	13	20.3
石川県	13	18.8
福井県	10	22.7
山梨県	9	16.7
長野県	18	14.9
岐阜県	13	12.4
静岡県	28	15.7
愛知県	43	16.2
三重県	18	19.6
滋賀県	11	14.9
京都府	35	26.9
大阪府	61	20.3
兵庫県	49	19.1
奈良県	12	19.7
和歌山県	12	21.1
鳥取県	8	19.0
島根県	27	45.8
岡山県	24	22.9
広島県	15	10.3
山口県	14	15.6
徳島県	10	20.4
香川県	8	16.0
愛媛県	16	19.8
高知県	13	21.7
福岡県	35	17.1
佐賀県	6	10.9
長崎県	17	17.5
熊本県	10	10.3
大分県	14	19.2
宮崎県	12	18.5
鹿児島県	16	15.2
沖縄県	9	10.3
全国	1,010	16.8

学科別採択校数 (校)	
普通科	654
工業科	158
商業科	120
総合学科	70
農業科	59
理数科	50
情報科	23
家庭科	21
福祉科	12
看護科	12
水産科	11
その他	104



【図表1】文部科学省「高等学校DX加速化推進事業」(DXハイスクール)の概要 ※2024年度

内容	支援対象
デジタル人材育成のための教育に必要な環境整備の経費を支援	情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校(公立・私立の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部)
支援校数・補助金額	1,000校程度・上限1,000万円/校(定額補助)
求める具体的な取り組み例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進(遠隔授業の活用を含む)</li> <li>・情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置</li> <li>・デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施</li> <li>・デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進</li> <li>・高大接続の強化や多面的な高校入試の実施</li> <li>・地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目(数学Ⅲ等)の遠隔授業による実施</li> <li>・専門高校において、大学等と連携した、より高度な専門教科指導の実施、実践的な学びを評価する総合選抜の実施等の高大接続の強化</li> </ul>

【図表2】申請要件における大学等との連携(抜粋)

- 1. 情報Ⅱ等の教科・科目の開設等**  
情報Ⅱ等をすでに開設している(情報Ⅱに相当する内容を含む大学等の科目を履修することを含む)、もしくは令和6年度中に具体的に検討し、準備を進めること。また、早期\*に受講生徒数の割合を全体の2割以上とすることを目指すこと。  
【加点項目】大学教員や博士人材等による教師向け研修、授業の実施
- 2. デジタル環境の整備と教育内容の充実**  
デジタルを活用した課外活動又は授業を実施するための設備を配備したスペースを整備し、教育内容の充実、探究的な学び・STEAM教育等の文理横断的な学びの機会の確保、対話的・協働的な学びの充実を図ること。  
【加点項目】大学教員や博士人材等の高度な外部人材・外部コンテンツの活用等

\*既設では遅くとも令和8年度まで

**大学・高専機能強化支援事業選定大学への連携の依頼**

情報Ⅱや探究的な学びの充実等のための連携(例)

- ・大学教員や博士人材等による高等学校の教師向け研修の実施
- ・大学教員や博士人材等による高等学校における出前授業の実施
- ・大学における情報関連科目(情報Ⅱに相当する内容を含む)の高校生の受講

【図表3】DXハイスクール支援大学例

埼玉工業大学	「DXハイスクール対策チーム」を編成し、DXハイスクール採択校の協力依頼に対応する。高大連携によるDXハイスクール支援に関する問い合わせ窓口も設置。
日本工業大学	「DXハイスクール支援プロジェクト」として、専門の教員がDX関連科目の出前授業や高校教員向け研修などを行う。
新潟県立大学	「データサイエンス教育センター」が新潟高校の高校1年生全員に講義を行うほか、DXに関する実習・ワークショップを実施。
金沢工業大学	高校教員向けに「DXハイスクール応援プログラム」を実施(2024年8月)。同時に、高校生向けデジタル体験プログラム「DXフェス」も開催。

\*【図表1・2・4】文部科学省「令和6年度高等学校DX加速化推進事業(DXハイスクール)の採択校について」を基にBetween編集部にて加工。太字、下線は編集部によるもの。【図表3】各大学Webサイトの情報を編集部にてまとめ

注目  
地域連携

2  
高校編

地域の高校との連携では、2024年度に始まった文部科学省の「DXハイスクール」事業に注目する。今、高校でのデジタル人材育成に、大学との連携が期待されている。